

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 13 号 平成16年 3月

発行元 福島市中町 8 番 2 号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9833 FAX 024-524-2393

第4回福島県農地保有合理化法人連絡会議を開催



平成16年2月5日(木)、福島市「福島県自治会館」において、第4回福島県農地保有合理化法人連絡会議を開催しました。

この連絡会議は、農地保有合理化法人相互の連携を強化し、農地保有合理化事業を活用した地域における効率的土地利用等を

推進することを目的に開催し34名が出席しました。

会議に先立ち農林水産省経営局構造改善課農地保有合理化班訟務官 松枝恵一氏より「現在の農業情勢と農地利用集積の方向について」と題して基調講演が行われました。

次に、舘岩村農業公社総務課長 星 英信氏が舘岩村農業公社における農地保有合理化事業の実施状況について事例報告が行われた後、平成16年度農地流動化関連新規事業「地域ぐるみ農地集積事業(県単独事業)」の概要、平成15年度実績見込み、平成16年度事業計画について情報交換が行われました。



昭和村「グリーンファーム」が公社を訪問



(左から小林昭和村長、小林取締役、
公社星専務理事、入江会津坂下普及所長)

平成16年1月23日農林水産省において、全国経営基盤強化促進委員会の本年度優良認定農業者の表彰式で、法人・土地利

用型部門での農林水産大臣賞を受賞した(有)グリーンファーム(昭和村)が受賞報告のため、平成16年2月2日(月)(有)グリーンファーム小林安郎代表取締役が当公社を訪れました。

(有)グリーンファームは、地域・JA・行政が一体となって設立した担い手となる特定農業法人であり、担い手がなく高齢化が進んだ中山間地域で農地保有合理化事業を活用し農地の集積を行っております。

公社HPの事例紹介の中で、むらぐるみ7つのタイプ・第三セクター[07 他地域の担い手に任せる(第三セクター)]に掲載しておりますので是非ご覧下さい。

(<http://www.fnk.or.jp>)

育成センター

全国青年農業者会議で「サークルつばさ」が表彰

平成16年3月4日(木)~6日(土)の3日間、東京都「国立オリンピック記念青少年総合センター」において、平成15年度全国青年農業者会議が行われました。

この会議は、日本農業の担い手の若者たちが、日頃の研究成果について発表するとともに、農業についての諸問題を討議して、新しい農業及び農村の建設に資することを目的として開催されました。

この会議の大会式典の中で、「農業青年クラブ機関紙(誌)・ホームページコンクール」の「ホームページの部」において喜

多方農業改良普及所管内の農業青年クラブ「サークルつばさ」が第一席を受賞いたしました。



(福島県からの参加者)

育成センター

新規就農希望者支援交流会を開催！～県内外から19名が参加～

主催 福島県農業振興公社青年農業者等育成センター -
福島県農業会議新規就農相談センター -

平成16年3月6日(土)、福島市「福島県青少年会館」において、新規就農希望者支援交流会を開催しました。この交流会は、就農を希望されている方々が既に就農した先輩農業者からの生の声を聞いたり、就農地等の現地をつぶさに視察することで、農業・農村に対する理解を深め、今後の就農に備えて貰うことを目的に開催したもので、朝からの降雪にもかかわらず県内外から19名が参加しました。



(平成9年度に霊山町に就農された大武秀紀さんからのアドバイスを真剣に聞く参加者)

交流会では、育成センターから、新規就農を考えるに当たっての留意事項などを説明した後、県北地方に新規参入で就農した2名の先輩農業者からの事例報告、参加者との意見交換、さらに午後からは農業施設等の現地視察を行いました。

参加者は、先輩農業者の実体験に基づく貴重なアドバイスを聞き漏らさぬよう熱心にメモをするなど、これから新規就農を考えるうえで大いに参考になったようでした。



(現地視察先である四季の里いちご園の渡邊和宏さんからの説明を聞く参加者)

平成15年度福島県農村青年会議を開催しました。



平成16年2月5日(木)～6日(金)の2日間、郡山市熱海町「清稜山倶楽部」において、平成15年度福島県農村青年会議を福島県農業青年クラブ連絡協議会との共催により開催しました。

この会議は、新しい農業経営者としての資質の向上を図ることを目的に開催し、約110名が参加しました。

会議初日は、「地域興しマイスター」小柳剛照氏を招いて「元気が出る地域興し」をテーマとした講演が行われ、その後グループ討議を行い盛会に終了しました。

2日目は、農業青年が日頃からの研究成果をテーマにプロジェクト発表会が行われ、プロジェクト発表の部・意見発表の部それぞれ9名が発表を行いました。

最優秀賞(知事賞)

D" A T C H 佐原洋一郎、今井雄治
優秀賞(公社理事長賞)

D" A T C H 後藤正人

公社利用者の声



河東町 梶内 正信

私は、河東町で水稲、花きなどの複合経営を行っており、経営規模は、水稲約 14,500 a、花き（スターチス）30a、花木（カナリヤナス）30a を栽培しております。

私と農業公社との関わりとして、現在町農業委員を務めている関係から、農地移動適正化幹旋事業や農地保有合理化事業等、規模拡大に係る農地集積の制度にふれる機会が多く、地域の農地を維持するためには地域の農業を守る担い手農家の育成が必要であり、そのためには農地集積による作業効率及び生産性の向上による安定的な農業経営が出来る基盤作りが欠かせないと思っております。

公社を仲介した売買のメリットとして、例えば、同じ集落内の所有者の農地を取得

するにしても一度農業公社が所有者となり第三者の権利抹消等の処理を行ってからの売買であり、農地を取得する者として安心して農地取得が出来ることだと思います。

私は規模拡大にあたり、町農業委員会が実施する農地の利用調整により農業公社から農地を取得しましたが、平成 13 年度には農地取得を前提とした一時貸し付けの制度とリース事業を活用し 50ps のトラクターを導入しました。

これらの制度は、規模拡大を行う上で大変有効な制度であり規模拡大予定者の都合による取得時期の調整や農業機械の設備投資の軽減が図れる等、これらをうまく活用した規模拡大を今後も進めて行きたいと思っております。

編集後記

日本人は、水と安全はただと思っていた時期もありましたが、現在は飲料水をコンビニやスーパーで購入する方がとて多くなっています。日本の水がうまいのはカルシウムやマグネシウムなどの適度のミネラルを含んでいるため、水道水のカルキ臭などを我慢すればいつでも好きなだけ水が飲める。こんな国は世界でも数少ないと思いますが、「うまさ」なのか「安全」を求めて買っているのか、水道水を信用できない人が多くなっているのも確かなように思います。（S.M）

問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島県福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(524)2393
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。
<http://www.fnk.or.jp>

この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」